

オープンエアに広大な平野 佐賀は「自転車王国」 サイクルツーリズムに活路見いだす

佐賀県の一部地域で、自転車のことを「けったくい」という。ペダルを「蹴ったくって走る」という意味と語感の良さから気に入っている佐賀弁の一つだ。高校時代、その「けったくい」で通学していた。

佐賀県の良さの一つは広大な平野。普段の移動手段に、多くの人が自転車を使い、「自転車王国」といわれる。朝のラッシュ時、佐賀市中心街は自転車で登校する中学生や高校生であふれる。

さて、旅の話である。新型コロナウイルスで人々の価値観が変わり、「ツーリズム」の形態も「感染リスクをできるだけ減らしながら旅を楽しむ」という傾向が強まるだろう。少人数での「安近短」が人気を集め、車での移動が増えるかもしれない。佐賀県は、その新しい「旅のかたち」にふさわしい資源があると思う。

その一つが「サイクルツーリズム」。広大な青空の下、広々とした平野部を「けったくい」で走るスタイルだ。佐賀県は本年度、「歩こう。佐賀県。」のプロジェクトの一環として「自転車活用推進計画」を策定し、その中に「サイクルツーリズム」を掲げる。

長距離サイクリングというより、車を駐車した後、自転車で観光地を巡る「パークアンドサイクル」が、「ウィズコロナ」時代の旅の形として需要が高まる気がする。

「3密」にならない施設として人気を集めそうなのが「吉野ヶ里歴史公園」。今年4月にオープン20周年を迎える。コロナで入園者は減少傾向だが、換気の必要がない「オープンエア」が見直されたのか、昨秋は修学旅行の利用が入り、持ち直した。バーベキューコーナーは家族に人気が高い。近くには自然共生型アウトドアパーク「フォレストアドベンチャー・吉野ヶ里」もある。あなたも佐賀に「けったくい」にきませんか。

佐賀新聞社 論説委員会論説委員 中島義彦



火起こし体験などもでき、家族旅行に人気の吉野ヶ里歴史公園＝神埼郡吉野ヶ里町



木々の間をワイヤを伝って歩く「フォレストアドベンチャー・吉野ヶ里」も多くの家族が訪れている＝神埼郡吉野ヶ里町